

研修参加報告書

令和7年10月22日

会 派 名 無 会 派
会派代表者 津田 貴史

(参加者：津田 貴史)

研修参加の結果について、次のとおり報告します。

年 月 日	令和7年10月20日(月)～21日(火)
研修時間	10月20日 13:00 ～17:30 21日 9:00 ～15:15
研修場所	JIAM(全国市町村国際文化研修所：滋賀県大津市)
研修内容	<p>令和7年度 市町村議会議員研修[2日間コース] 「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」</p> <p>[講義] 地方議会の展望 講師;北川 正恭氏(早稲田大学名誉教授)</p> <p>[講義] 「議会改革度調査」から見る地方議会 講師;中村 健氏(早稲田大学デモクラシー創造研究所 地域経営部会長)</p> <p>[事例紹介] 住民参加・情報公開を進める取組 ① 講師;上田 朋和氏(石川県加賀市議会副議長) ※コーディネーター; 中村 健氏</p> <p>[事例紹介] 住民参加・情報公開を進める取組 ② 講師;村上 大地氏(奈良県王寺町議会 議会事務局議事庶務係長) ※コーディネーター; 中村 健氏</p> <p>[進め方説明] 各議会における今後の議会改革推進の検討方法</p> <p>[グループ討議] 各議会における今後の議会改革推進の検討</p> <p>[討議結果報告] 3班 藤井 照憲氏 (広島県 世羅町議会) 7班 斎藤 喜美子氏 (高知県 南国市議会) 講評;中村 健氏</p>

研修参加報告書

■目的

議会改革の分野について、住民参加や情報公開における最新の動きを取り上げ、制度や問題について理解を深めながら、江南市議会での議会改革における諸課題について考える。

■内容

10月20日(月)・・初日

【 講義 ; 地方議会の展望 】 13:00~14:30

《 なるほど と思った点 》

- ・地方議会の立ち位置 : 国との関係は上下主従でなく対等協力であるべき。
- ・2元代表制の再確認 : 民意の反映機関としての議会であり、執行部(当局)の政策ありきはNG。
- ・チーム議会 : 議会事務局は庶務のみにあらず。
議員の方から働きかけ、職員の遠慮を無くす。
- ・構造改革 : 見せかけ(議員定数や報酬)の量的改革ではなく質的充実をはかるべき。

【 講義 ; 「議会改革度調査」から見る地方議会 】 14:45~15:30

《 興味深かったこと 》

- ・役所の問題 : “画餅”総合計画、“一斑を見て全豹をトす”人事評価
- ・市民と市役所のやりとり : “要望”に対する、“論点のずれた対応”
→我々の一般質問にもよく見られる。問題の本質の探究が肝要。
- ・調査とその先 : “情報共有”・“住民参加”で開かれた議会に加え、議会機能の強化が必要
→課題に気付いた住民が行う意思表示(請願・嘆願)に対し課題解決の為の政策立案で住民自治を成熟化
→執行権・予算編成権を持つ首長サイドと議決権を持つ議会サイド間での対話・議論醸成で“住民が望む”まちづくりをアシスト

《 試行してみたい事例 》

- ・レベルの高い政策提案:[現状分析]→[事例収集]→[複数の解決策たたき案]の間を ChatGPT の支援で、効率化を図ると同時に広範囲な情報から適切な政策案を模索する。

【 事例紹介 ; 住民参加・情報公開を進める取組① 】 15:45~17:30
～石川県 加賀市議会の取組～

《 再確認する必要がある点 》

- ・議会基本条例:“政策提案”・“行政監視／審議”は当市の条例では、どう表現されていてどの様に機能しているか。
また不足点や時代に合わなくなっている点の改正が適宜実施されているか。

- ・情報発信：議会 HP(議員毎の賛否・委員会討議/報告)や議会中継(YouTube)は見易いか。
- ・議長が議会の取組を動画等で分かり易く解説するという活動は当市でも取り入れることを提案したいと思う。

【 交流会 】

18:00～

当該研修参加者_81 名の内訳

- ・24 の都道府県から、25 市 32 町村議会が参加(北_北海道～南_宮崎、愛知からは 3 市 5 町の 11 名)
- ・当選回数1期:37> 2 期: 22 > 3 期: 11 > 4 期: 5 > 5 期: 5 > 6 期: 1
→ 皆さん意識が高く、熱い。

10月21日(火)・・最終日

【 事例紹介；住民参加・情報公開を進める取組_② 】

9:00～10:55

～奈良県_王寺町議会の取組～

《 驚いた点 》

- ・市民(の脳裏)に届かない広報は税金と時間の無駄という観点
- ・広報コンクールの存在(優勝・入選多数)と(行政・議会)広報にかかる熱い想いと活動
→ 研修講師依頼・視察受入_年間 50 件以上(ほぼ 毎週 !!!!)

《 当市広報で取り入れる価値の高い活動 》

・行政広報部分

- ① 表紙 ← 手に取ってもらえる表紙 (広報こうなんは概ね好評_○)
- ② 人が 主役 の特集記事 ← 広報こうなんに欠けている点でもある(親近感がない)
- ③ 読み手第一・スリム化した文章 (紙面は型通りで保守的なイメージ)
※ 読み手のターゲットとコンセプトを決める必要があるとのご意見は参考程度と思われた。

・議会広報部分

- ① 関心の高い案件に優先順位・メリハリをつける。
(すべての審議結果を均等に掲載しない 等)
- ② 行政用語や議会用語は言い換えや解説付記
- ③ 議員の人柄がわかるようなコメント掲載 (脱・報告書の観点)

【 進め方説明；各議会における今後の議会改革推進の検討方法】 11:10～11:40

【 グループ討議；各議会における今後の議会改革推進の検討】 12:40～15:00

1 班 6 名を単位とし、14班に分かれて演習(意見交換)を行った。

私は 13 班でメンバーは6名(次項一覧)。個性がある班員構成で意見百出。

		(党派)	(期)
埼玉県 北本市	青野康子	参政	1
埼玉県 鶴ヶ島市	村上信吉	-	1
長野県 長野市	山崎昭夫	維新	1
兵庫県 尼崎市	佐野匠	立民	1
鳥取県 大山町	西本憲人	-	2

各グループの討議状況を講師が聞いて回り、特徴的な2班が報告した。

報告) 3班 藤井 照憲氏 (広島県 世羅町議会)

7班 斎藤 喜美子氏 (高知県 南国市議会)

ダイアログのテーマは「議会だよりをどう改善すればよいか」でありいずれの班も現状認識を「議会だよりの要否」からヒアリングを始め、どうすべきかの結論は午前中の事例紹介に近い所に落とし込んでいた。

やはり検討ステップが大事なようだ。感覚論で語るのではなく、現実を直視しみんなが共感共有できるバックボーンをベースに意見醸成を図っていくことを心がけたいと思う。

■所感

参加者の8割(81人中59人)が1・2期生であり、議会の在り方に疑問を持っているからか討論は熱を帯びていた。発言内容からその人となり理解できるので、こうしたグループワークが初日に行われていると、交流会でもっと深い意見が聞かれ理解が進むと思う。

他市町の状況に目を向ける良い契機となったので、今後は前例にとらわれず広い視野で諸課題に取り組んでいきたいと思う。

事例を持ち帰り、市職員とともに、江南市がもつ課題の解決に向けた取組を積極的に実施していく必要があることを実感した。